

【単年度事業評価様式】

栄区地域子育て支援拠点事業
令和7年度重点目標評価結果・令和8年度重点目標

事業実施期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年度目／5か年度)
事業の実施者	社会福祉法人地域サポート虹 栄区こども家庭支援課
事業目的	<p>市民が安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。</p> <p>【事業・施設運営の基本理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 栄区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営 2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営 3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営 4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営 5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることができる視点に立った運営 6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。 2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。

令和7年度重点目標の評価

令和7年度重点目標①	多様な養育者に向けた支援の充実を図り、子育ての不安軽減に努めます。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ●妊娠中の方やその家族に向けて安心して子育てができるような取り組みを実施する。 ●父親のニーズを把握し、父親の育児支援を行う。 ●外国につながる養育者のニーズについて、前年度の課題を踏まえ見直しを行い来館促進に努める。

取組の成果	<p>●妊娠中の方やその家族に向けて安心して子育てができるような取り組みを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月「Welcome!プレママプレパパDay」の予約がすぐに定員に達することから、より多くの妊娠期の方が参加できるよう定員を8組から10組へ変更した。 ・定員数を増やした為、プログラムの内容や場所を再検討し、よりスムーズに参加しやすい流れに変更した。 ・定員を超える参加希望があった場合には、プログラム構成や時間を工夫し、すべての参加希望者が参加できるように工夫した。 ・区の母子保健コーディネーターから最新の沐浴を拠点の職員が学び、利用者に最新のケア等の情報を提供した。 ・プレパパに対し助産師から、妊婦の心身の状態や、産後の母親の精神面について話をしてもらうことで、パートナーとの具体的な関わり方を再認識することができた。 ・産後の来館につながるよう拠点の役割や0歳児のプログラムについて丁寧に説明した。 ・妊娠期向けのプログラム以外にも、妊娠期の方が参加しやすいように、Instagramやチラシ等に「妊娠中の方もどうぞ」と記載した。その結果「ふたごみつごの会」や「あーすぷらざdeにこりんく」等に妊娠期から参加する人が増えた。 ・区の事業、ハピママサロンやハピパパサロンに参加し、拠点の周知を図ることで「安心できる居場所」や「身近な相談先」として認識してもらえるよう努めた。 ・区と拠点の役割分担を明確化し、拠点では沐浴体験や妊婦体験、区では妊娠期から生後4か月までの「ハピママサロン」を実施した。区と定期的に情報共有及び連携を図り、切れ目のない支援の充実に努めた。 <p>●父親のニーズを把握し、父親の育児支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の父親向けプログラム、ステーションまつり、栄区民まつりにて父親向けのアンケートを実施した。 ・具体的な設問をアンケートに設け、父親層がひろばに求める利用目的を把握することができた。「子どもを遊ばせたい」「父親同士の交流」を目的で来館する父親が多い為、父親が孤立せず、安心して親子で過ごせる居場所づくりを心がけた。特に初めて父子で利用する際には、丁寧な施設案内と情報提供を行い不安の解消に努めた。相談のニーズに対しては、ひろば内での傾聴を強化するとともに、専門相談の周知を図った。 ・今年度より新設した「パパの為のキャリア相談」には、家族に打ち明けにくい悩みを専門職に相談することで、父親自身の心情整理や課題解決の一助となった。 ・父子限定の「パパリんくの日」では、参加者が特技を披露する機会を設け、父親同士の交流を促進した。参加者から、「次回は自身もやってみたい」との声があがり、主体的な参画に繋がった。 <p>●外国につながる養育者のニーズについて、前年度の課題を踏まえ見直しを行い来館促進に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、拠点で外国につながる養育者の支援を行っていることをHP、Instagram、広報等で周知した。 ・区や母子保健コーディネーターと連携し、各種機関において拠点の周知を実施した。妊娠期の夫婦が拠点に来館し、利用者の親子との交流やプログラム(沐浴体験)参加につながった。 ・栄区内の外国につながる養育者やその支援者向けの情報が集まる施設(あーすぷらざ情報フォーラム)を訪問し、拠点やプログラムの周知を依頼した。
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・父親向けアンケート実施後、アンケートの分析までは至らなかった。次年度はアンケートから見えてくるニーズを把握し、プログラムの見直しを行う。 ・近隣区の拠点と父親向けのプログラムの日程が重なり参加者が減少した為、来年度は近隣拠点と話し合い、週をずらして開催する必要がある。 ・外国につながる養育者向けのプログラムを実施したが、参加者は各回0～1組で交流には至らなかった。チラシの見直しや周知方法の検討を行う。また、外国につながる養育者の来館自体も少なかったため、次年度は区と連携し拠点の周知や多国籍の親子のニーズ把握を行う。

令和7年度 重点目標②	拠点のネットワークを活かして、地域の子育て支援機関や団体と協力し「共育て」を目指します。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ●各地域のネットワークをさらに広げ、区の子育て情報の収集の仕組みを考え、養育者や支援者に必要な情報が届けられるよう工夫する。 ●子育て支援団体連絡会を活用し、子育て家庭の状況を伝え、各団体の情報共有の場として各地域の課題を探り、課題解決に向けて連携し取り組む。 ●養育者や支援者に地域とのつながりの大切さを伝え、「つながる」為の仕組みを考える。

取組の成果	<ul style="list-style-type: none"> ●各地域のネットワークをさらに広げ、区の子育て情報の収集の仕組みを考え、養育者や支援者に必要な情報が届けられるよう工夫する。 ・拠点のホームページで地域の情報を地区ごとに集約。養育者や支援者が効率よく情報を得られる仕組みを整えた。 ・各団体からの情報収集をスムーズに行うための体制の仕組みを整えたことで、拠点のホームページへのタイムリーな情報掲載が可能になった。 ・今年度より新たに本郷中央地区の会議に参加。拠点のホームページに地区の子育て情報を集約するための話し合いの場を設け、地区における情報発信の方向性を明確化できた。 ・子育て世代の主要な情報源であるインスタグラムの研修に参加。投稿におけるリスク管理や効果的な見せ方を学び、実務に活かした。 ・パマトコを積極的に活用し、プログラム情報を掲載をしたことで、区外の利用者の来館につながった。 <ul style="list-style-type: none"> ●子育て支援団体連絡会を活用し、子育て家庭の状況を伝え、各団体の情報共有の場として各地域の課題を探り、課題解決に向けて連携し取り組む。 ・区内の子育て現状について情報提供を行い、各団体とグループワークを通じて課題認識の共有を図った。 ・養育者のニーズが高い、「保育園等の預け先」や「区内の預かり支援」について各団体と学ぶ機会を設けた。 ・各団体へのアンケートに基づき、具体的な課題解決に向けたグループワークを実施した。(酷暑の中での遊びの工夫や熱中症対策について)(今どきの子育て世代のニーズについて) ・各団体との連携が深まったことを受け、地域全体で子育てを目指し「切れ目のない支援、地域でつくる」をテーマに研修会を行い、支援の質の向上を図った。 <ul style="list-style-type: none"> ●養育者や支援者に地域とのつながりの大切さを伝え、「つながる」為の仕組みを考える。 ・各地域に出向く際、地区のコーディネーターと地区ごとの悩みやニーズを共有することで、地区のニーズに合わせた共催事業を行うことができた。 ・各地域で共催事業を行う際、各地域の資源を活用して事業展開した。その結果地域の社会資源を知り、養育者と支援者と出会う場となった。
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体からの情報収集体制を構築したが、区内の子育て関係者への浸透が十分ではない。次年度は、改めて周知を再強化する。また、直接関係機関に拠点スタッフが出向いて情報集約の方法の説明や情報収集を行う。 ・ホームページやインスタグラムによりタイムリーな情報の掲載が可能になったが、「情報の探しやすさ」にはまだ課題がある。今後は知りたい情報を得やすいホームページに改善を進めていく。 ・子育て支援団体連絡会のアンケートにおいて、「各団体との顔を見える関係作り」を求める声が多かった。今後も引き続き情報共有や交流ができる場を提供し、連携の強化を図る。

次年度重点目標

令和8年度 重点目標①	子育て家庭の多様化するニーズや課題を把握し、多角的な支援を行う。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ●保育園、幼稚園へ就園した家庭への継続した利用促進を図る。 ●父親のニーズを多角的に分析し、父親の育児参画を支援する。 ●外国につながる親子が安心して拠点を利用でき、地域の中で孤立せず子育てができる環境づくりに努める。
令和8年度 重点目標②	拠点のネットワークを活かし、様々な子育て支援機関や団体と協力して「つながる」地域を目指します。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て支援機関・団体との相互的な情報交換を行い、養育者のニーズに即した情報提供を充実させる。 ●子育て世帯が地域で孤立することを防ぐため、拠点のネットワークを活かし地域の子育て支援体制の基盤強化を目指す。